

07 科学的に考える

取組事例

37

アカデミー棟から学ぶ森林のはたらき

～ 豊かな森林づくりの大切さと、森づくりに携わる仕事 ～

津市立家城小学校 5年生



実施時期	令和6年9月
実施場所	三重県林業研究所アカデミー棟
時間	2時限（45分×2）
対象・人数	小学5年生 7人
講師	県林業普及指導員1人
備考	普及活動の一環として実施

めざす姿	07 科学的に考える （01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける）
ねらい	木材を生産する人工林の整備の必要性を科学的に考える
内容	<ul style="list-style-type: none"> アカデミー棟に使われている木を調べる活動を通して、木の香りやぬくもりを感じ、違いを知る。 建築材には、針葉樹が適していて、三重県は人工林が多いことを知る。 実験を通して、森林の土を支えるはたらきや、水をきれいにすることはたらきについて科学的に考える。 人工林の整備を進め、豊かな森林を守るために、私たちに何ができるのかを考える。
学習指導要領との関連	森林資源と木材生産（小学5年生社会科） 面白さ・不思議さ（小学1～2年生生活）、楽しむ（小学1～4年生道徳）、比較する（小学3年生理科）、自然環境と地場産業・飲料水と森林保全（小学4年生社会科）、水の循環（小学4年生理科）、森林資源のはたらき・森林と人々の暮らし・森林を保全する仕事（林業）・自然災害と森林整備（小学5年生社会科）、水の作用（土砂運搬）（小学5年生理科）、地域の自然環境と人々の暮らし（小学生総合的な学習の時間）
準備物	じょうろ、スギのポット苗木、樹木の土と同じ土が入ったポット、洗面器、ビーカー、木材の標本、アカデミー棟に使われている取っ手の木
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> 実験をしてみて、木があると土が崩れないことが分かりました。だから、木がないところは山崩れが起きたりして、大事故になったり環境が悪くなるから、木を大切にしていきたいです。 アカデミー棟に行って、木の種類がたくさんあることがわかりました。私はぜんぜん木の名前が分からなかったの、ウォークラリーで知れてよかったです。 森林の整備をしている人はすごいと思いました。でも、林業の仕事をしている人が足りないということを知りませんでした。僕は木を使って生活をしているから、自分も手伝えることをできるだけしたいです。 「森林がなくても環境は大丈夫でしょ！」と小さいこと思ったことがありましたが、実験をして土が崩れたり、動物にも影響することによってびっくりしました。森林がないと土砂崩れや動物にも影響することを知りました。学んだからこそ、私は森林を大切にしていきたいです。みんなで森林を大切にすれば、すてきな森林をつくれると思います。 僕は、実験をしてもっと森林を大切にしようと思ったし、木や森が好きになりました。もっと森林のことを知りたいし、もっと森林アカデミーで学んでみたいです。
学校のコメント	・後日、今回の見学で学んだことをふりかえり、子どもたちが動画を制作しました。

取組の内容

建物にはスギヤヒノキが多く使われている

知る



何で、建物にはスギヤヒノキが使われるんだろう？

スギヤヒノキは早くまっすぐ伸びるよ

いろいろな種類の木を探す

木の名前が書いてあるよ！

はじまり



この取っ手は何の木かな？

体験する

三重県の林業と林業の課題

三重県は「尾鷲ヒノキ」など、江戸時代から林業が盛ん

三重県は人工林が多い

知る



林業をする人が減っている

森の手入れの大切さ

知る



人工林は人の手入れが必要なんだね。

ポット苗木を使った実験

体験する



大雨のあとの川の水の色はどっちかな？

知る

実験のふりかえり



根っこがからまって、土が崩れるのを防いでいたね。

苗木の方の水は透明だったね。

ふりかえり

豊かな森林を育てるには？

考える

高く売れる木を育てる。



林業体験をして林業をする人を増やす。

考える



木は何年くらい育てると、使えるようになるの？

木の成長を早くするにはどうしたらいいの？

どうしてアカデミー棟を作ったの？